

▼INDEX▼

■【監査室 WEB 情報】
・「監査ニュース」研究費７００万円を不正支出 大阪府立大大学院教授を停職３カ月　外６件
■【内部監査情報】
・平成２６年度内部監査（標準会計監査）について
・平成２６年度内部監査（フォローアップ監査）について
■【監査人監査情報】
・平成２６年度会計監査人監査　～「統制テスト」が始まります～
■【連載企画】
・H・直樹による内部監査の倍返し　「超過勤務、事前申請していますか？」
■【Audit Cafe】
・今年の秋

表題写真：生命科学研究科の大銀杏

監 査 室 WEB 情 報

・「監査ニュース」　研究費７００万円を不正支出 大阪府立大大学院教授を停職３カ月　外６件

博士論文の不正疑惑で早大が小保方氏の博士号を取り消しへ
研究費７００万円を不正支出 大阪府立大大学院教授を停職３カ月
新潟大学、職員を児童買春・ポルノ禁止法違反の疑いで懲戒解雇
懲戒処分:勤務中ネットで馬券購入し停職 佐大が職員処分 ／佐賀
名大への補助金交付凍結を解除…不正認められず
ノーベル賞:ＬＥＤ先駆けの西澤潤一・東北大名誉教授「日本の高い技術力」
クルマの冬支度は万全？



【監査ニュース】の詳細は、コチラ↓

http://www.bureau.tohoku.ac.jp/audit/3-11index.html

内 部 監 査 情 報

・平成２６年度内部監査（標準会計監査）について

早いもので今年も残すところ２か月となりました。日毎に寒さが強まり、冬の到来を予感させる季節になりましたが、冬とともにやってくるのが、毎年恒例の内部監査（標準会計監査）です！今年度は１２月８日（月）～１月２３日（金）までの日程で１５部局を対象に実施する予定となっております。

監査内容としては、「平成２６年度内部監査基本計画書」に記載しております「物品・役務契約」及び「工事契約」のほか、昨年に引き続き「物品実査」等を予定しております。対象部局の皆様には、日程照会の文書を送付し、ご回答いただいたところですが、実施日程が決定しましたら改めて通知いたしますので、よろしくお願いいたします。

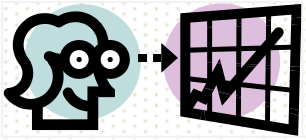
・平成２６年度内部監査（フォローアップ監査）について

平成２６年度内部監査（フォローアップ監査）については、標準会計監査と併せて日程調整をさせていただいているところです。

今年度のフォローアップ監査の対象となる監査事項は、平成２５年度内部監査において、“改善”または“経過観察”として指摘している事項となっております。

本監査では、既にご提出いただいている「改善計画（状況）回答書」に記載された改善計画の内容を基に改善が図られているか（改善状況）について、重点的に確認させていただくことになります。

なお、標準会計監査の対象となっている部局については、標準会計監査と併せてフォローアップ監査を実施する予定です。詳細につきましては、後日通知いたします。



部局の皆様におかれましては、適宜「改善計画（状況）回答書」に沿った改善を図られていることと思われますが、監査の際にはご協力方、よろしくお願いいたします。

【内部監査】については、コチラ↓

http://www.bureau.tohoku.ac.jp/audit/3-1index.html

監 査 人 監 査 情 報

・平成２６年度会計監査人監査　～「統制テスト」が始まります～

９月に会計監査人が実施した「業務プロセス・内部統制の把握」に引き続き、今月から「統制テスト」と言われる監査手続きが始まります。

こちらも、来年度に文部科学省へ提出する財務諸表等にお墨付きをもらうためには、欠かせない監査手続きですが、内容としましては、支払（債務計上）や入金（債権計上）などの各取引における部局内での手続きフロー及び統制手続きに関して、その有効性を確認するために、伝票等の閲覧を実施するものです。監査内容及び準備資料の詳細については、近日中に連絡いたしますので、対象部局におかれましては、ご協力方、よろしくお願いいたします。

なお、監査当日は、我々監査室のスタッフも必ず立ち会いますので、疑問点等がありましたら、遠慮なくお声掛けください。



【会計監査人監査】については、コチラ↓

http://www.bureau.tohoku.ac.jp/audit/3-3index.html

連　載　企　画

内部監査 H・直樹

内部監査の倍返し

「H・直樹による内部監査の倍返し」は、内部監査等において見受けられた事例等を取り上げて紹介する新コーナーで、これまでの「教えて成田くん！」や「How to 東山クン！」を発展的に引き継ぎ、一見些細なことながら、実は法令違反の可能性、会計検査院に指摘される恐れがあるもの等、大きなリスクを有している事例について迫る予定です。

第３回のテーマは**“超過勤務、事前申請していますか？”**と題してお送りします。どうぞ最後までお付き合いください。

勤務時間管理システムは事務系職員を対象として、本部事務機構では平成２３年８月から、部局では平成２４年１月から稼働しており、早３年近く経過いたしました。

超過勤務は本来事前に命令を受ける（申請する）必要がありますが、もしかしたら**「業務に集中し、気付いたら所定終業時刻を過ぎていたため、超過勤務時間をシステムに入力し、打刻して帰宅する・・・」**といった経験がある方もいらっしゃるかもしれません。



監査室では、平成２５年度に「内部監査（人事業務の監査）を実施したところですが、次のような事例が多くの部局で見受けられました。

勤務時間管理システムの適正な運用について

事務系職員の勤怠管理は、勤務時間管理システムを用いて管理しており、その運用については、「事務系職員の超過勤務管理のあり方に関する基本方針」（平成 22 年 12 月 22 日事務連絡会議承認）や「勤務時間管理システムの手引き」等に基づき行う必要があるが、超過勤務の事前申請やパソコンのログイン、ログオフ時間と始業、終業時刻のかい離の有無を確認していない等、適正に実施されていなかった。　（内部監査報告書（会議版）より）

そこで、今回の「H・直樹による内部監査の倍返し」では、“超過勤務の事前申請”についてクローズアップしてお送りしたいと思います。

みなさん、「事務系職員の超過勤務管理のあり方に関する基本方針」（平成 22 年 12 月 22 日事務連絡会議承認）はご存じですか。「？」という方は下記リンクよりご覧ください。

■「事務系職員の超過勤務管理のあり方に関する基本方針」（平成 22 年 12 月 22 日事務連絡会議承認）
（※東北大学グループウェアにログインしている状態でクリックしてください。）

これは事務系職員の超過勤務の管理に関する方法について方針が示されたものですが、当該方針の“Ⅰ基本的な考え方”によれば、**“超過勤務は、管理職の超勤命令（管理職から発するもののほか、職員からの超過勤務申請を承認する行為を含む。）により行う。”**とされており、**管理職の超勤命令が原則**であることが分かります。

この超勤命令には、括弧書きにも記載があるとおり、“職員からの超過勤務申請を承認する行為を含む”ので、「なーんだ、申請するのが後でも先でもいいんじゃないの？」と思われる方もいらっしゃるかもしれません。

これについては、同方針の“Ⅱ　自己申告制による超過勤務管理の方法”に、**所定終業時刻１時間前（１６時１５分）までに、管理職に対し超過勤務申請を行い、管理職は当該超過勤務申請を受けて、業務上必要と判断する範囲で、所定終業時刻１５分前までに承認（＝超勤命令）する**ことと定められています。

つまり、**超過勤務を自己申告で行う場合は、原則『事前に申請（または、承認を受ける）しなければならない』**ということです。

しかし、超過勤務の事後申請（承認）は一切認められないわけではなく、業務の都合等により申請又は承認行為が事後とならざるを得ない場合について、同方針の“**イレギュラーな場合の管理方法（対応例）**”の中で下記のとおり示されています。

イレギュラーな場合の管理方法（対応例）

〇申請期限（16 時 15 分）後に緊急業務が発生した場合
〇職員が勤務場所を離れて勤務しており申請期限（16 時 15 分）までに申請できない場合
〇管理職が不在（出張・休暇・会議等により実質的に承認行為ができない状況）の場合

以上のことから、**単に区切りがよいところまで業務を進めたいといった理由で超過勤務を行うことや、業務の繁忙による申請の失念や事後申請が常態化している場合には、勤務時間の管理が適正になされていない**ということになるのです。

ある部局では、このような事後申請が常態化しないように、「１６時になった段階で管理職が執務室内に超過勤務の必要がある者はシステムで申請するように声をかけ、超過勤務申請がやむをえず事後になってしまった場合には、翌日等に理由を求めるなど事前の申請・承認を行っている」ようでしたので、参考にご紹介させていただきます。



さて、今般、勤務時間管理システムのメンテナンスにより新たな機能が追加されました。
（伝達フロー 配信番号:14101236【勤務時間管理システム】メンテナンスの終了について（10/7～10/10））
この機能改修により、超過勤務申請が「超過勤務開始時刻」より早い場合には「事前」の表示が、「申請時刻」が「超勤開始時刻」より遅い場合には「事後」の表示がなされることとなりました。



なお、人事企画部では、平成 26 年 9 月以降、毎月数部局を抽出し、勤務時間管理システムの運用状況のモニタリングを行っているようです。
部局の皆様におかれましても、今後とも日々の適正な勤務時間管理に協力をお願いいたします。

監査室　Ｎ幹事

Audit Cafe

毎月、監査室のスタッフが交代で「つぶやく」このコーナー！
今回のつぶやきは、「今年の秋」と言うお題のようです。
いったいどんな話になることやら・・・。

もう１１月である。当然秋である。秋は、一般的に夏の暑さがやわらぎ、過ごしやすい季節と言われている。仙台は違う。特に、今年の仙台は違う。昨年は、９月末までは半そでシャツでも過ごせたし、１０月でも長袖１枚で過ごせたアツカッタ記憶がある。気候もそうだが、街全体がアツカッタ。それに比べれば、今年は、少々変である。寒さが身に染みる。齢のせいだろうか？　気温だけではないようだ。東北楽天ゴールデンイーグルスの成績によるところが非常に大きいものと考えられる。



熱い男が、地方都市の創設１０年弱の小さな集団をグイグイ引っ張り、選手はもちろん地元野球ファンの意識を変え、街を熱気に包み、日本一に駆け上り、日本国中を感動に巻き込んだ記憶がいまだに冷めやらない。

今年は、ご自身の体調不良があったとしても、成績不振を大義名分とした引き際は、一人のファンとしてはビックリするが、潔さには感動を覚える。このような責任の取り方は、私の回りでは見たことがない。ほとんどが、責任を他人に押し付ける、言い訳に徹する等保身が見え隠れする。出処進退は、そうありたいと常々思い描いているところであるが、私には到底まねのできない行動である。強く感銘を受け、尊敬する気持ちが湧いてくる。



子供の頃は、「巨人・大鵬・卵焼き」の時代に育っており、遊びが野球しかなく、自然に傾倒していった。野球には少しは詳しい。当時は、巨人の第３次黄金時代、かつ、究極の栄光期とも称される。この時代の巨人は、昭和３６年に就任した川上哲治監督のもと、王貞治・長嶋茂雄という二人のスーパースター、いわゆるＯＮ砲がいて、巨人が強かった。
このチームに真っ向勝負を挑んだのが、楽天の前監督である。現役時代から指導者時代に至るまで一貫して打倒巨人に燃えていた。子供心に憎い敵としてとらえていたのは、幼いながら当然の気持ちであったと回想している。しかし、青年期に入ると、必死に立ち向かう姿は、男らしさがあり胸に響くものがあった。まして、仙台に住むようになってからは、心の底から応援するようになっていた。
この男は、巨人の１０連覇を阻み、自チームを２０年ぶり、２度目のセントラル・リーグ優勝に導いている。見えないところでの努力は相当のものと推察されるが、気持ちの持ち方が強い。ご自身の著書の中で「プロのピッチャーとしては２００勝に到達できない二

流の成績で終わったが、気持ちと気迫と気合いだけは誰にもひけをとらなかったと思っている。」（『夢 命を懸けたＶ達成への 647 日』、2003 年、角川書店、P37-P38）と記している。スポーツを続けている私としては、非常に納得できる言葉である。２０代或いは３０代の若い頃に気が付いていたら、もう少し違った人生だったのではないかと悔やんでいる次第である。



その男が、ユニホームを脱ぎ球団を辞め仙台を去る（らしい？）。このあたりが、仙台を一段と寒く感じさせているのではないか？

今年の９月にマスコミの取材で、「秋は別れの季節って言うだろ？涼しくなってきて、さみしい気分になる。でも、オレは秋が一番好きだよ。野球屋はオフが秋だからかもしれないけど、次に向かって何かが始まる。いい季節だよ。」と言ったとの新聞記事（デイリースポーツ９月１９日配信）を見つけた。なかなか味のある言葉だと思う。一区切りをつけた後の、次へのステップアップを図ろうとしている意図がうかがえる。「奢ることなく準備を整えよ！」と言っていると受け止めている。時期や事柄の違いはあるものの、我々の日常の業務にも何かしら通じるものがあると考えられる。

ちなみに、当時は「巨人・大鵬・卵焼き」どれも好きだった。今は、特定の球団を応援するわけでもなく、興味を持つプレーヤーがいるわけでもない。しかし、卵焼きだけは大好きである。

監査室　Ｆｒａｎｋ・Ｎ

最後までお読みいただきまして誠にありがとうございました。
引き続き、「おうでぃっとめ～る」をどうぞよろしくお願い申し上げます。
バックナンバーは、監査室 WEB ページをご覧ください。

◆おうでぃっとめーるに関するお問い合わせやご意見、ご感想は下記までお寄せください。

【電話でのお問い合わせ】
東北大学監査室
０２２－２１７－４８７４（監査室長：金子）
０２２－２１７－５６８０，４８８０（平野、荒澤、菊地、西川）
【メールでのお問い合わせ】
東北大学監査室
kansa@bureau.tohoku.ac.jp

Copyright(C) Audit Office,Tohoku University . All rights reserved.
おうでぃっとめーるの無断転載を禁止します